

屋久島世界自然遺産登録 20 周年記念 ヤクタンネ！ ヤクタンネゴヨウ植樹

ヤクタンネゴヨウは屋久島に約 2,000 本、種子島に約 300 本しか生存していない希少種で保護、保全が必要な五葉松です。

このヤクタンネゴヨウを世界に紹介したのはウイルソン博士で、来年 2 月で博士が屋久島に来島されてから 100 年を迎えます。

このウイルソン博士来島 100 周年と世界自然遺産登録 20 周年を記念して、11 月 16 日に屋久島町船行のヤクタンネゴヨウ見本林においてヤクタンネゴヨウ 28 本の記

念植樹を行いました。

ウイルソン博士は、調査を手伝ってくれた屋久島の青年達に屋久島の自然の豊かさを熱意を込めて説き、青年達はそれに大いに触発されたと言われています。このため、見本林の所在する船行を学区とする安房小中学校に参加を呼びかけたところ、安房小学校からは 4 年生の川東翔君とお母さんの愛さん、同じく 4 年生の馬場翔平君とお母さんのひとみさん、斧洲尚子教頭先生、安房中学校からは 3 年生の鮫嶋楓さんが参加してくれました。



参加者全員で『ヤッタネ！』記念撮影

また、ヤクタンネゴヨウの苗木を提供していただいた屋久島町環境政策課の松田賢志課長にも加わっていただき、秋晴れの中、参加者の名前が記名された標柱のそばに記念植樹を行うとともに見本林の欠損株に苗木を植え付けました。



植樹したヤクタンネゴヨウの前で説明する前田所長

当日は、センター職員からヤクシカの被害により希少な植物へも被害が出ていることやシカの捕獲員についての説明、実演を行い、瀬切大橋や国割岳の垂直分布遠望箇所では、森林総合研究所九州支所の金谷整一氏からヤクタンネゴヨウや屋久島の植生について解説していただきました。また、西部林道では屋久島生物多様性保全協議会が設置している植生保護柵において同協議会会長の手塚賢至氏から植生の回復状況等について解説していただきました。

最後に、風力散布型の種子の模型を使つての種飛ばしのおまけも付き、盛りだくさんの内容で記念植樹を終りました。

屋久島の植物



シロダモ (クスノキ科)

野島九州財務局長が屋久島の国有林を視察

11 月 14・15 日の両日、川端省三九州森林管理局長の案内で野島透九州財務局長が屋久島管内の国有林を視察されました。

野島財務局長は、以前から屋久島の世界自然遺産の取組や屋久杉の生育する自然林に強い関心をもたれており、今回、川端局長との交流を機に屋久島管内の国有林の森林や林業、流通などについて視察の運びとなったものです。

1 日目は、世界自然遺産地域の縄文杉をはじめ、大王杉や夫婦杉、ウイルソン株など奥岳地域の森林を視察されました。



左：川端局長、右：野島財務局長

本州以南に分布する常緑高木。葉は長さ 10〜15 ㎝の長楕円形で 3 脈が目立つ。若葉は黄褐色の絹毛に覆われて垂れ下がる。成葉の裏面は口ウ質に覆われて灰白色。初冬に黄褐色の小さな花が葉脇に多数集まって付く。果実は翌年の初冬に赤く熟す。雌雄別株。

滝、千尋の滝を経て、午後からは、安房地区春牧の貯木場を訪れ、今では資源量が少なくなり希少となった屋久杉土埋木や人工林杉の集積も視察されました。ここでは土埋木の特徴や価値、品質、流通について熱心に耳を傾けられました。

2 日間の限られた日程でしたが、屋久島の貴重な自然遺産地域に接し、改めて多くの感動を得るとともに森林管理署の業務の一端を見ていただいたことで、双方ともに充実した視察となりました。

屋久島西部の植生垂直分布調査(平成22年度)

●標高100mプロット

ピワンクボ川左岸山腹の照葉樹天然林。周辺は過去に薪炭利用され、胸高直径40cm以上の大径木は出現しないが、プロットおよびその周辺部は保護樹帯として胸高直径1m以上のスダジイ大径木が何本も保護されている。局所地形は平衡から凸型斜面で平均傾斜27°、平均斜面方位は南南西方向、標高80~90m範囲。【高木層】優占種はイヌノキ、フカノキ、イヌガシ、ショウベンノキ、ヤマビワ、オガタマノキなどが混生。高木層・亜高木層に出現する樹種が多い(8種以上のものが20種)。【亜高木層】イヌノキ、タイミンタチバナ、イヌガシ、フカノキ、ヤブツバキ、オガタマノキが多く、個体数は少ないがコパンモチ、トキワガキ、モッコク、ツゲモチ、ウラジロガシ、ハドノキ、ナギなどが生育。【低木層】イヌノキ、タイミンタチバナ、モクダチバナ、アオバノキ、ハリハリノキ、ヒサカキが多く、ヤマモガシ、ヤマビワ、ボチョウジ、シシアクチ、ヤブツバキなどが混生。個体数は少ないがアデク、ツゲモチ、サザンカなども生育。【草本層】植被率は低いが出現種数は多い(57種)。小プロット全5箇所に出現する種はアオバノキ、ハリハリノキ、アデク、ヤクカナワラビ、ノギリシダ、シラタマカズラ。個体数は少ないがアリドオン、ヤクシマアジサイ、サクララン、ウチワゴケ(着生)なども出現。【特徴】イヌノキ・タイミンタチバナ群集。高木層から低木層までイヌノキが多く、林床には雑樹も多く生育。特徴的な樹種としてアオバノキ、ツゲモチ、アデク、ボチョウジ、シシアクチなどの暖地性・亜熱帯性の樹種が生育。【5年前との比較】高木層の変化は少ないが、亜高木層のイヌガシの生育が目立つ。急傾斜の場所では低木・草本層へのヤクシカの食害は少ないが、林道沿いの傾斜の緩い場所では、スダジイヤマテバシイの萌芽枝が著しく食害されている。

屋久島と白神山地区が平成5年に日本初の世界自然遺産に登録されて以来、平成17年には知床、平成23年には小笠原諸島が登録されました。これらの登録地域はいずれも国有林が深く関わり、自然遺産の保全に向けた取組を行っています。

国有林と世界遺産 パネル展を開催

11月23日に宮之浦の屋久島離島開発総合センターで開催された世界自然遺産登録20周年式典会場のロビーにおいて、国有林と世界遺産の関わりを紹介する写真パネル展を開催しました。



各森林管理局の世界遺産や取組

また、「富士山」、「古都京都の文化財」、「古都奈良の文化財」、「紀伊山地の霊場と参詣道」、「厳島神社」などの世界文化遺産地域においてもその景観を保全するために国有林の整備に努



パネル展会場の様子

めています。今回のパネル展は、国有林と各世界遺産地域との関わりや取組を紹介し、改めて世界自然遺産屋久島の魅力や特徴を振り返ることを目的に開催したものです。写真パネルやパンフレットは各世界遺産地域の国有林を管理する北海道、東北、関東、近畿中国の各森林管理局から提供を受けました。会場では、知床の羅臼岳やヒグマの写真、白神のブナ林の黄葉、小笠原諸島の珍しい動植物や外来種の侵入を防ぐ取組、富士山麓の景観保全の取組、京都の神社仏閣の背景林としての国有林を、訪れた方々は興味深く見入っていました。また、同じ会場ではウイilson博士が100年前に撮影した

写真と現在の屋久島を対比させた写真展も開催され、併せて、これらの写真を元にウイilson博士の100年前の旅路を追った古居智子さんの「ウイilsonの屋久島」が出版されました。写真には、ウイilson博士を驚愕させた屋久島の鬱蒼とした森林はもとより博士を案内した鹿児島大林区署の職員の姿も写っており、改めて屋久島と国有林のつながりを感じる一日となりました。

アサヒビール 『ボランティア活動』

屋久島レクリエーションの森林管理協議会では、支援協定を結んでいるアサヒビールと地元の関係機関の皆さんとで、屋久島自然休養林(ヤクスギランド)と白谷雲水峡)内における清掃ボランティア活動を、平成20年度から毎年実施しています。

今年も屋久島世界自然遺産登録20周年を記念し、一般の参加者を募集して、11月30日(土)ヤクスギランドにて、アサヒビール14名、関係機関27名、一般参加者27名、総勢68名の参加をいただきました。今回の活動内容は、木道・手摺



ボランティアに参加された皆さん

りの苔落としや滑り止めの取り替え作業を7班に分担しました。当日は、前日の雪やみぞれの天候から一転して快晴の天候に恵まれました。気温5℃の寒い中での作業で、冷たい水を扱う苔落としは大変でしたが熱心な活動で無事に終了しました。参加者の皆さんも散策中の観光客の方から「ご苦労様・滑り止めは助かります」といった声かけと綺麗になった手すりに満足していました。参加者の皆さんに感謝申し上げます。